

## 令和4年度第2回守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議

日時：令和4年10月18日（火曜日）午後6時30分から午後8時30分まで

場所：守山市民交流センター サロンルーム

委員：

No	委員区分	団体名等	氏名	備考
1	1号委員	市民（自治会）	石田 俊治	
2	1号委員	守山商工会議所	葭本 勝利	欠席
3	1号委員	市民（自治会、市民活動）	金野 弘子	
4	1号委員	市民（市民活動）	根木山 恒平	
5	1号委員	市民（民生委員）	西井 泉	
6	1号委員	市民（生涯学習、青年活動）	松井 里美	
7	1号委員	市民（市民活動）	遠藤 由隆	
8	2号委員	龍谷大学政策学部教授	只友 景士（委員長）	座長
9	2号委員	しがNPOセンター理事	西川 実佐子（副委員長）	
10	3号委員	市民（公募）	宮川 美紀子	
11	3号委員	市民（公募）	菅井 隆雄	

発言者	会議内容（要旨）
石田委員	<p><b>議事（1）令和4年度上半期の市民参画事業にかかる進捗状況について（報告）</b></p> <p>もりやま未来ミーティングについて参加者24名のうち託児利用も数名いたとのこと。アンケート結果を見ると、子育てがテーマなら参加したいという意見がある。守山市内では年々、若いお父さんお母さんや子どもが増えている。若いお母さんは子育てに関するテーマに興味があることが、このアンケート結果を見ても分かるので守山市としても子育てに関する取組を進めていってほしい。</p>
事務局	<p>今回のもりやま未来ミーティングでは、参加者のうち女性の割合は半数程度だった。過去に守山学区でわがまちミーティングを実施した際、若いお父さんが子どもを連れて参加するというケースが多くみられ、市民懇談会がお父さんとお子さんが接する機会にもなっていると感じた。</p> <p>事務局としても託児の必要性は認識しており、現在実施している「さんさんまちサポセミナー」でも託児の対応を可としている。先日（10/15）、第二回を開催したところ2名の託児利用があり、参加者が集中してセミナーを受講いただけた。</p>
石田委員	<p>若いお父さんお母さんがまちづくり活動等に興味を持って参加いただけすることはとても良いことだと感じる。そういう雰囲気、場所、空間づくりは大切だと思う。</p>

宮川委員	<p>学区市民懇談会（わがまちミーティング）について、以前からこの場でも意見が出ているが、守山学区以外のところにも、こういうことができるということを働きかける必要がある。守山学区での開催の経緯や効果を明示することで、他の学区でも開催したいと思うのではないか。人集め等の苦労を思って二の足を踏む学区もあると思うので、市民協働課としてサポートをお願いしたい。</p> <p>また、市職員有志のこれから協働のまちづくり職員勉強会について、若手職員が積極的に参加していることはうれしく思う。短時間ながらも活用できそうな意見が出たこともよかったです。通常業務と並行して実施するには管理職の理解が必要となるので若手職員の後押しをお願いしたい。</p>
菅井委員	<p>豊かな市民活動のまち応援事業について、認定団体3つのうち2つが子育てに関する団体であるあたりに地域の特色が出ていると思う。現在の寄付状況をお教えいただきたい。</p>
事務局	<p>この事業に対する寄付額は、9月末時点で全体で216,000円。その内訳としては、オムスピの会が1件7,000円、びわこ豊穣の郷が1件5,000円、たすき星が3件86,000円、指定なしが3件118,000円となっている。</p>
西川副委員長	<p>この事業に関しては、リストに掲載されたからと言って寄付が集まるわけではない。認定団体からPR・声掛けをしないと寄付は集まらない。担当課でも認定団体からの相談に乗ってあげて、せっかく始まった制度なので尻すぼみで終わってしまっては残念。成功体験があると、ほかの団体もやろうかとなるのでサポートをお願いしたい。</p>
菅井委員	<p>ふるさと納税を行った結果、こういうことができたという報告を受けることはできるのか。</p>
事務局	<p>個別の通知はしないが公表させていただく。</p>
菅井委員	<p>寄付した個人に対して活動報告書等がもらえれば、寄付した結果が見えて次回も寄付しようと思う方がいるのではないかと思う。</p>
只友委員長	<p>最初の設定の段階で紐づけをしておかないと寄付した個人を特定することは難しいかもしれない。この制度をきっかけに直接的な寄付が広まることを期待する。</p>
西川副委員長	<p>活動紹介のページでもいいが、どこかに寄付をもらった団体からの感謝の言葉が一行でも記載されれば寄付してよかったですと思ってもらえる。</p> <p>チャレンジ応援事業を今年度新設したが、新設の趣旨にそった団体からの応募は</p>

	あるか。
事務局	<p>過去に市民提案型まちづくり支援事業を利用したために申請できなかった団体等の受け皿となっている。また、書類審査のみで可否を決定するので気軽に申請していただけることにも新たにメニューを設けた意味があった。事前相談会についても、淡海ネットワークセンターからアドバイザーをお招きし、8団体程度のご相談に乗ってきたところである。</p>
西井委員	<p>立入公園整備のワークショップに参加したが、職員ファシリテーターがうまく進行してくれたおかげで、参加者も気持ちよく自由に話すことができた。特に若者の意見はとても斬新で驚くものもあったが、総じていい経験をさせていただいた。</p> <p>先日、たまたま県外から引っ越してきた方とお話をすると機会があったが、守山市内にどこに何があるか全く分からず不安であるとのことであった。転入時に市民課でも地図等を配布いただけると思うが、転入者の年齢や家族構成によってママパスポートのようなものを配布するとよいのではないか。</p>
事務局	<p>市民課でも転入者用のセットを作つてお渡ししているが、ママパスポートのようなものは入っていないと記憶している。確認し参考にさせていただく。</p>
只友委員長	<p>行政のそれぞれの部署で冊子を作つて配布すると逆に混乱を招くことになりうる。ワンストップでつながる情報発信の方法が最適である。</p>
石田委員	<p>石田自治会ではほとんどの転入者があいさつに来てくれる。その際、自治会活動や地域のことを説明することで自治会にも積極的に参加してくれる。</p>
只友委員長	<p>改めて、わがまちミーティングへのハードルが高い理由はどこにあるのか。7月のもりやま未来ミーティングでは在住歴の浅い新住民が多くたが、新住民が積極的に地域のことを考えるのはよいこと。わがまちミーティングももっと気軽にできるといい。</p>
西川副委員長	<p>わがまちミーティングの手引書や動画をつくつて、あらゆる場面で市民懇談会をPRするといいかもしない。</p>
	<b>議事（2）中間支援組織の構築に向けた取組について</b>
石田委員	中間支援組織を行政で直営することは考えていないのか

事務局	現状では、考えていない。
石田委員	新たに団体を設立して運営を任せるのは難しい。市社協など既存の団体に運営を任せるのが妥当だと考える。
事務局	これまで新庁舎の完成時期を視野に入れつつ、令和5年4月を目指して取り組んできたが、慌てて進めるのではなく慎重に検討するよう市長の意向が示された。いつまでも現状のままではいけないと理解しているので、令和6年4月には体制を整えたいと考えている。
宮川委員	今年度はまだ声を掛けてもらっていないが、市民ファシリテーターとして登録している。市民ファシリテーターの方々には、中間支援をはじめとして市の取組に積極的に協力したいという思いを持っている方がいらっしゃると思う。今の仕事を辞めてでもというのではなく、できる範囲で協力したいとの思いはあるので、市民ファシリテーターを有効に活用してはどうか。
只友委員長	指定管理から直営にならざるを得なかった背景もあり、速やかに指定管理に戻したいとの考えも分かるが、市長から腰を据えて取り組むよう指示があったことは時間的猶予から考えてもよかったです。まずは団体が育つ環境づくりに知恵を絞り幅広いメンバーで共同学習をしながら、ゆくゆくはそのメンバーの中から中間支援を担ってもらえるといいと思う。
西川副委員長	ある程度の形がないと話が進まないというのはよくよく分かるが、市民協働課で作っておられる資料をいきなり提示されると受け手は厳しいと感じるのではないか。最初から完成形を望まず、お互いにみんなが学び合って形を作り上げていくといいのではないか。
只友委員長	どんなことをやったらおもしろいかを市民ファシリテーターや市民懇談会の参加者などで話し合うとおもしろい。
事務局	いただいた意見を踏まえて整理して検討していく。
石田委員	宮本市長が任期満了で出馬されないことが決まり、次は新しい市長となるが、新市長にもしっかりと説明をして進めていただきたい。
事務局	市長が代わるにあたり、この事業についても説明する。新たな要素が入ってくることもあると思うが改めて協議していきたい。

只友委員長	新市長に説明するにあたって、担当課としての方向性を明確にし、担当課に任せても大丈夫と思わせるような説明をすべく準備しないといけない。 新市長の任期半分として2年程度を目途に若い世代に中間支援を担ってもらえるような環境を作っていくないと腹をくくって説明してはどうか。2年あれば何とか一定の形はできると思う。
西井委員	これまでワークショップなどの積み重ねがあるにもかかわらず、市長の交代によってこれまでの取組が変わってしまっては残念である。時間はかかるかもしれないがみんなで考えて取り組んでいくべき。
菅井委員	私はもりやま未来ミーティングやファシリテーター養成講座に参加したことをきっかけに、まちづくり推進会議に出席することになった。宮川委員がおっしゃるようにファシリテーターとして活動する機会がなかったことは残念に思う。
只友委員長	ファシリテーター養成講座など大きな一歩を踏み出した市民がまちにはたくさんいらっしゃるので、そういった方々といっしょに中間支援について考える。自分でつくるのが難しいとなれば、県内の他団体に任せるのも手段の一つではあるが、できれば市内で完結できれば一番いい。
西川副委員長	ファシリテーターは話し合いの場をつくる人なので、中間支援的なイメージは持ち合わせていると思う。
石田委員	市民ファシリテーターは何人程度いるのか。
事務局	市民ファシリテーターとしては、積極的に参加いただく方々で6～8名程度。
石田委員	これまでの話にも出ているが、市民ファシリテーターは積極的な方が多いように感じるので、課題解決に向けて話し合っていただいたらと思う。
只友委員長	2018～2019年ごろに市民ファシリテーターを集めた学習会をやろうという話が出ていたように記憶している。スケジュールが合わなかったり、新型コロナの流行ったりでストップしてしまった。
石田委員	市民ファシリテーターに向けた情報交換会等をご検討いただければと思う。
事務局	どういったことができるか、いただいた意見を踏まえて検討していく。

(了)